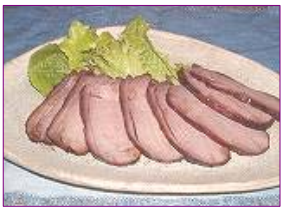
地域ぐるみの有害鳥獣対策とシカ肉有効活用のシステムづくり

知井地区鹿有効利用プロジェクト



地域協働の有害鳥獣対策とシカ肉利活用で特産品開発

鳥獣による農林業被害は、作物へのちの影響とともに農林業に携わる人たの生産意欲の減退を招くなど地域の農林業振興にとっても深刻な課題となっています。

南丹市美山町の知井地区では、地元の狩猟者グループが中心となり、シカの捕獲と食肉等への利活用の取組が続けられてきました。

この取組が、地域の様々な団体と連携しながら更に拡充させていく「知井地区鹿有効活用プロジェクト」の取組です。

このプロジェクトでは、地域ぐるみで支える安心安全なシカ肉供給地も動き出し、地域の絆で深刻な鳥獣被害を克服するモデル的、狩猟、シカの有効利用を通じて健全な自然の保全を目指す大切な取組が進化しています。

これまでの関係者を対象とした捕獲・解体技術の向上対策やシカ肉の美味しい料理法の勉強とPR、新商品の開発など十年の活動の成果で、平成二十一年には安心安全なシカの解体処理施設も完成し、地域ぐるみで支えるシステムも動き出しています。

＜写真説明＞ 上段：プロジェクトアドバイザー藤原有さん（田歌舎）考案の鹿料理レシピ集、中段上・下：猟友会と連携した狩猟風景、下段：シカ肉の供給拠点として期待される解体処理施設（南丹市美山町江和）

DATA

＜連絡先＞
TEL&FAX 0771-77-0330（江和ランド）
TEL&FAX 0771-77-0509（田歌舎）
e-mail homaru@cans.zaq.ne.jp
HPアドレス http://www.cans.zaq.ne.jp/fuajs500/shop_f.html#info1
＜代表者＞
大野安彦（観光農園江和ランド代表）
＜設立時期＞
平成20年５月
＜活動内容＞
狩猟・有害鳥獣駆除、鹿肉解体処理、有害鳥獣対策勉強会、鹿の捕獲・処理法講習会開催、鹿料理レシピ作成、残滓の利用促進

解体処理施設内部

▲ひすとりー

○～平成17年　知井猟友会としての狩猟活動
○平成18年　森林荒廃や農業被害を目の当たりにし、地域住民、農事組合、森林組合などと連携した狩猟活動と相互理解が大切と考え知井猟友会として有害鳥獣対策勉強会開催を呼びかけ
秋　知井振興会と共催で有害鳥獣勉強会を開催
○平成19年春　知井振興会と共催で第２回有害鳥獣勉強会開催
奥山の森林被害を報告し、地域の自然環境の悪化への住民理解、民家近くの農林業被害情報を地域住民から集約することなどを進め、野生鳥獣対策を考える機会とした。
秋　農業被害を少なくするための実地学習会開催。知井地区内４集落で、専門の講師の指導の下、防除方法の講座と防除ネットの点検実施
○平成20年　知井猟友会を中心に、地域住民、ＮＰＯなどと連携し、知井地区鹿有効利用プロジェクトを立ち上げ
３月　狩猟による鹿肉の有効利用を進めるためにも解体処理施設建設を提案
12月　地域力再生事業で建設した鹿肉解体処理施設竣工式開催
（京都府知事、南丹市長臨席）

▲代表者いんたびゅー

知井地区鹿有効利用プロジェクト代表　大野安彦さん

代表の大野安彦さん（中央）を囲んで
右　鹿取　悦子さん　　左　藤原　誉さん

○発足のきっかけは？

豊かな自然に囲まれた美山の地で、自然と共生したネイチャー生活の実践をめざしたくて定住した若者や地元猟友会・旅館や民宿、地域振興会の関係者が協働して野生鹿の有効利用を進めていくこととしました。

○活動での工夫点は？

狩猟活動を持続させていくためには、捕獲された鹿などが適正に消費される仕組づくりが必要です。狩猟で得られた資源を大切にし無駄なく丁寧に解体することにより、安心安全で美味しい食材として活用することが可能になります。

シカ肉を美味しく食べていただくための料理法の研究や学習会・情報発信活動なども行い、多くの方々にシカ肉の魅力をわかりやすく伝え、身近な食材としてご親しんでいただくことを心がけています。

○現在の活動内容は？

異常繁殖した野生鹿は、農作物に留まらず林床の植物をも食い荒らし、芦生の森林を代表とする美山町の豊かな森林の被害や、土砂の流出などにより清流で有名な美山川にさえも悪影響を及ぼしています。

私たちは、鹿だけでなく様々な野生生物が正常な個体数を維持することを念頭において狩猟活動を心がけるとともに、住民向けの獣害対策学習会の開催や鳥獣保護区の管理に対する問題提起など、野生動物と人々の暮らしに関わる狩猟以外の取組も行っています。

○今後の課題は？

鹿を森林の資源と捉え、食材以外の利活用策の開発にも挑戦しています。様々な主体と連携して捕獲解体から消費までの循環シシステムを構築し、森林保全と地域の活性化に繋げていきたいと考えています。

★広域振興局も協働していています！

南丹広域振興局では「地域振興計画」に基づき、有害鳥獣を地域資源として有効活用し、豊かな森林・環境を未来に引き継ぐ地域経営を目指しています。

野生鹿の増加による農林業被害が深刻な地域課題となっており、有害鳥獣対策に取り組むとともに、南丹広域振興局独自の取組として安全な食材として安定供給するシステムづくりや残滓の有効利用の調査研究などを進めています。

また、ヘルシーな食材のシカ肉のPRキャンペーンやシカ肉料理を味わえる体験型広域観光ツアーの企画実施など、農林業施策と商工観光施策を連携させながら、シカ肉利活用の仕組づくりを推進しています。

試食会でシカ肉料理の説明とレシピ集を披露

地域の方々が集う試食会

鹿角のアクセサリー

▲とぴっくす！

○「鹿料理レシピ集」で美味しい調理方法を紹介中！

プロジェクトのメンバーが考案したシカ肉の美味しい調理方法が「レシピ集」で紹介されています。高蛋白・低脂肪でヘルシーなシカ肉の魅力を PR するため部位・季節・雄雌による肉質の違いや脂の乗り引き出す秘訣などが解りやすく説明されています。平成二十年十二月十六日のシカ肉の解体処理施設竣工式のシカ肉料理試食会で「レシピ集」も披露されました。

○鹿角のアクセサリーも登場！

残滓（ざんし）の有効利用も課題の一つで、年間何十本も取れる鹿の角を使ってプロジェクト若手スタッフのアイデアも取り入れながら、近年の自然派志向や若者世代の感性にもマッチした携帯ストラップやアクセサリーなど小物の考案・作成にも取り組まれています。

また、食材以外への利用も開発していくことにより、捕獲個体の更なる有効利用が進むことが期待されます。